白井市自然環境市民調査員

――千葉県立中央博物館　原田先生による地衣類（コケ）調査――

長谷川キャラバン

ぶつかるぐらいに　なめるぐらいに　木に顔を近づけて…

2006.2.7. 谷田(北)　　2006.2.17. 宗像神社、武西、谷田(南)

市民調査員参加者：
2/7:斉藤さん、相馬(唐)さん、米田さん、緒方さん、森田さん、相馬(な)
2/17:新見さん、森田さん、米田さん、矢野さん、相馬(唐)さん、相馬(な)

昨年 11 月 22 日に自然環境調査員養成講座で地衣類の野外調査が行われて以来数回に亘り、原田先生による調査・実習が行われています。初めて出会う地衣類の世界にとまどいながらも、ルーペを握り締め　木に張り付いているうちに少しずつ違いが分ってきて･･･。

「子器(しき)をしっかり確認して下さい。」

（パソコンで“**しき**”は 60 種類の変換漢字があるも『子器』はでませんでした）

「粉芽（ふんが）があるでしょう。」「裂片（れっぺん）の形もよく観て！」

と辛抱強く教えて下さる気さくな原田先生（←）のおかげで

未知の世界への好奇心が、またもや呼び覚まされて･･･。

小さな小枝を拾うと　その１本に色々な地衣類がついていることを知る

モジゴケ：文字が付いているよう

オリーブトリハダゴケ：
オリーブ色っぽくて鳥の肌のよう

レカノラ･レプローサ：
いぼみたいな子器が薄い褐色

標本が必要なため、木の状態を判断してから採取

同定も作業も早業です

クチナワゴケ：赤味を帯びた地衣体
クチナワとは、ヘビの意味

ナミガタウメノキゴケ：文化センター正面のマツに付着

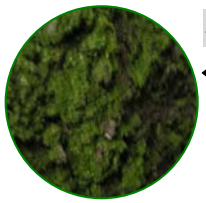
今までは樹皮の特徴にしか見えていなかった模様が、地衣類という見事な生き物であることを知った驚きと喜びは大きく、幹を触れる指先にも存在を確認してみたくなる

宗像神社入り口のエノキに

モジゴケ

ソバカスゴケ ⇒

オリーブトリハダゴケ



石碑についていた地衣類の

← マユゴケ 数々

よーく観ると石碑から

黒い毛が立っています。

日本で見た人は僅かだとか

イヌシデには、

サネゴケ

カシゴケ

ヘリトリモジゴケ

年輪状のウメノキゴケ。中心部が若い部分⇒

こんなに大きいウメノキゴケを見たのは

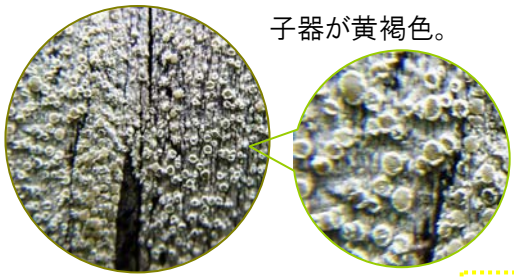
初めてでした。ここまで成長するのに

約 30 年かかるそうです。(1 年間に 8 ㎜)

○宗像神社で 3 時間ほど熱中したあと、昼食をとり、午後は武西・谷田へ。

杭にコナイボゴケがついていました。

子器が黄褐色。



ヒサカキの葉の表面に藻類、スミレモの

仲間が付いていました。

熱帯系の地衣類で

湿潤である場所に

生えているそうです。

思わず「**きれい！**」

地衣類は菌類の仲間で、カビやキノコと同類。何 10 年、何 100 年も生きるそうですが、空気中にある水分やミネラルを取り込んで生活しているため、大気汚染が進んでいると消えてしまうそうです。ウメノキゴケが見つかった平塚、宗像神社や谷田は、良い環境が残っているということでしょうか。

原田先生は風のような方で、身のこなしも軽やかですが、パスチュール、シリア、コフキジリナリアなどと 日本語かラテン語か解らない単語を 私たちにさわやかに投げかけます。フィスキア・オリエンタリスなんて長々しい名前も最近舌をかまずに言えるようになったのは、先生の風のように自然な実習を受けたおかげです。感謝致します。